

## 要旨

【研究目的】本研究は文献レビューを通して、初期診断時にかん告知を受け、根治治療がないと告げられた患者の心理的反応と意思について明らかにし、その看護を考察することである。

【研究方法】初期診断時にかんを告知され、根治治療がないと告げられた患者の心理的反応や意思に関する内容を示した先行研究を PubMed、CINAHL、医学中央雑誌を用いて検索を行い、得られた文献から情報を抽出し、内容を分析、統合した記述的研究である。検索の結果、英文献 2 件、和文献 5 件を対象として、批判的吟味を行い、アブストラクトテーブルにまとめ、初期診断時のかん患者の心理的反応と意思を抽出した。

【結果】初期診断後では、「信じられない」などの心理的反応や、「情報提供の希望」、「日常生活への希望」、また、家族が支えであるという「家族に関する意思」、医療者を信頼するという「医療者に対する意思」、「治療への希望」が見出された。根治を目的としない治療を行っている時期では、「ショック」などの心理的反応や、「情報提供の希望」、「日常生活への希望」、家族への感謝を始めとする「家族に関する意思」や、医師や看護師を頼りにする「医療者に関する意思」、治療を行うかどうか、継続するかどうかなどの「治療に関する意思」、交流を図りたいなどの「同病者に関する意思」が見出された。根治を目的としない治療を終了した時期では、「受容」などの心理的反応や、病状の進行により ADL が低下したために、「自己コントロールの喪失感」を感じることや、「生きたいという希望」、「他者とのかわりの欲求」が見出された。診断時から終末期までに見られる意思は、「死を実感したときの意思」や、「家族と他者に関する意思」、「自己を尊重した生き方の希望」、「コーピングストラテジーを持つこと」が見出された。

【考察】初期診断時にかん告知を受け、根治治療がないと告げられた患者に対する看護は「患者の心理的衝撃を理解し、患者が安心できる関わりをする」、「患者が望む生き方ができるように今後の経過を予測して情報提供をする」、「患者が望む生活を送るために、今できること、やるべきことを患者と共に確認する」、「家族と共に過ごすことで患者が支えを得られるようにする」、「患者が生きる支えとなる価値観に気づけるようにする」ということが見出された。